

# GLOBAL VOYAGE

「グローバル ヴォヤージュ」

August, 2017

Vol. 3

特集

楽園のもうひとつの姿

ガイドブックに  
載っていないハワイへ

第二特集

世界三大仏教遺跡を巡る

〔発行〕(株)ジャパングレイス



1:ホノルルにあるカメハメハ大王像。1810年にハワイを統一した。2:ワイキキビーチとダイヤモンドヘッドはハワイの代名詞。



楽園のもうひとつの姿

# ガイドブックに載っていないハワイへ

多くの人が憧れる南の楽園、ハワイ。現に日本からハワイへの旅行者は年間約150万人といわれている。1日にすると、約4,000人も日本人がハワイを訪れている計算だ。それだけ多くの人が訪れているハワイについて、我々はどれだけのことを知っているだろう。かつて日本から海を渡った日系移民のこと、戦争に巻き込まれたという意識のハワイの人々がいたこと、ハワイアンアイデンティティがアメリカによって奪われていたこと。もしも、私たちがまだ知らないハワイがあるとしたら。ガイドブックに載っていない、もうひとつのハワイを探してみよう。



3:ハワイには戦争にまつわる施設も多い。4:プランテーションでは日系移民が働いていた。5:オキナワンにまつわる石碑が今も残る。

## CONTENTS

### 特集

楽園のもうひとつの姿

ガイドブックに載っていないハワイへ…………… P3

地図で寄港地をゆく[南イタリア編]…………… P7

### 第二特集

世界三大仏教遺跡を巡る…………… P9

PEACE BOAT NEWS

ロウイン副首相訪船…………… P14

アウシュヴィッツ

寄港地ツアー参加者インタビュー…………… P15

世界一周いろいろランキングvol.3

「世界のビール」編…………… P17

PICK UP

ビールに合う世界の食事…………… P18



*Ocean Dream*

ハワイ・ホノルル港停泊中のオーシャンドリーム号

表紙の写真

ハワイ・ワイキキビーチ。ホノルルには第95、99、102回クルーズで寄港予定。







1:夕暮れ時のビーチは昼間と違った幻想的な光景を楽しめる。2:日系移民の当時の暮らしを知るプランテーションビレッジ。3:オキナワンがふるまうサーターアンダギーは美味。4:日系移民のために建てられた神社が今も残っている。

レインボーアイランドといわれるだけあって島にはよく虹がかかる。



## ハワイ 人気土産&フード



ホノルルクッキーはハワイのお土産の定番。

かわいい花形の髪飾りは女性にも人気。



安くてボリュームミーなフィッシュタコス。



たといわれる。その時の彼らの暮らしを知る施設として、ハワイズプランテーションビレッジという博物館がある。そこでは、当時沖縄出身の日系移民（通称・オキナワン）が、ハワイの人からだけでなく同じ日系移民からも別の民族だとして差別を受けていたことなど、過酷な暮らしを迫られていたことを知ることができる。そういった背景の中、頼れる先のないオキナワンは自らのルーツである沖縄の人々と繋がり続けた。後に沖縄の人々が戦後の食糧難に陥った際に手を差し伸べたのは、ハワイにいるオキナワンたちだった。こうして彼らが力を合わせて豚を送り、それが食料となり、沖縄の人々の命を繋いでいった。このように、教科書にもガイドブックにも載っていないような物語がハワイにはあふれている。

## 「レインボーアイランド」といわれる所以

ハワイの有名なことわざに「No rain, No rainbow.」というものがある。ハワイでは「悲しいことのあとには、いいことがあるさ」という意味で使われている。このようなことわざがあるように、ハワイではよく虹を見ることができ。ハワイで虹が多いのは、海からの湿った空気が火山にぶつかり、シャワーと呼ばれるにわか雨が降ることが多いからだ。そのためハワイは「レインボーアイランド」という呼び名がついている。

ハワイがそのようにいわれる理由はもうひとつ。それはハワイがいろいろな移民で成り立っている島ということ。したがって、自ずと他文化を受け入れるというのが彼らの習慣になっている。虹がよく見え、さらに彩り豊かな文化が混じり合った場所こそが「レインボーアイランド」ことハワイなのだ。

19世紀半ばから約100年にわたり、ハワイでは特に日系移民の割合も多かった。今でもハワイの人々の親族内のだれかが日本に縁があったり、日本の姓が残っていたりするケースがある。ハワイの人々は日本人に対してフレンドリーという印象があるが、どちらかというと日本が彼らのルーツの一部になっているからなのかもしれない。

日系人が移民として当時従事していたのはサトウキビ栽培。プランテーションの中の厳しい環境下で働いてい



失われたハワイを取り戻そう。

1970年代、「ハワイアンルネッサンス」と呼ばれるハワイアンたちによるハワイ文化の復興を目指す運動が盛んになった。その運動の発端は、ハワイがアメリカの領土となったことでフラやハワイ語が禁止され、英語が公用語になるなど徹底したアメリカ化により、彼らのアイデンティティが奪われていったことにある。

ハワイアンにとって、大事な合言葉がある。それは、大地を愛しましょうという意味の「アロハ・アイナ」という言葉だ。自分たちの暮らしている「アイナ（大地）」を大事にすることが、小さな島の持続可能な社会をつくりだす。先住ハワイアンから語り継がれたその教えこそ、観光地化された今のハワイに必要なものだった。特に今見直されているのが、彼らの主食であるタロイモの栽培。交流コースで食べることができる、その場でタロをつぶした伝統食「ポイ」または「パイアイ」は、真のハワイを知るには欠かせない逸品だ。

ハワイアンルネッサンスが起きて40年余り、「アロハ・アイナ」を合言葉にもうひとつのハワイが広がっている。



1: ホノルルにあるビショップ博物館はハワイ文化にまつわる展示が充実。  
2: 博物館外観。カメハメハ王家最後の王女の遺志を受けて造られた。



ハワイの伝統的料理。  
紫色のペーストがタロイモ。



Culture

3: 交流ツアーではハワイアンたちの話を聞くことができる。  
4: すりつぶしたばかりのタロイモはほんのり甘い。

## アロハ・アイナに込められたハワイアンの思い



1: 戦争で使われた戦闘機や戦艦が今も残っている。2: 奥には「対馬丸」を撃沈したという潜水艦ボーフィンが見える。



日本時間にして1941年12月8日未明。日本海軍はアメリカ海軍の太平洋艦隊とその基地であったパールハーバーを攻撃した。この空襲をきっかけに、日本とアメリカの戦争が始まったわけだが、そこには先住ハワイアンをはじめ、アメリカに併合される以前からハワイに暮らしてきたさまざまな国からの移民がいたという視点を忘れてはならない。彼らからしてみると、故郷ハワイがアメリカによって占領され、基地が造られ、空爆をされた。つまり、日本とアメリカが戦争をしたことに対して、巻き込まれたという意識のハワイの人たちがいたということを知っておきたい。

当時ハワイで暮らしていた日系移民についても同様だ。労働者として海を渡ってきた日本人がいて、その二世にあたる人たちが白人社会の中で這い上がるうとしていた気運の中で、日本による攻撃があった。彼らにとって、生まれも育ちもハワイであるのに、アメリカでは敵だと言われてしまう。そこで彼らはそれを超えるためにアメリカ軍に志願して、日系人部隊を結成することになった。そして彼らが送り込まれたのは、過酷な前線。結果として彼らは大活躍して英雄扱いされるものの、死傷率は非常に高いものだったという。

ハワイで戦争にまつわる代表的な施設は二つ。日本軍の攻撃により沈没した戦艦アリゾナの船影の上に造られた追悼施設、アリゾナ・メモリアル。そしてその横にある、日本政府がその甲板で降伏文書に調印したという戦艦ミズーリだ。同じ施設の見学であっても、戦争に巻き込まれたという意識のハワイの人々がいたこと、日本とアメリカとの間で翻弄された人々がいたことを知ったうえで訪れたい場所だ。

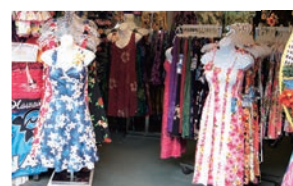
## 忘れてはいけないハワイの歴史

History



3: アリゾナ・メモリアルは今も多くの人々が追悼に訪れる。4: 施設内の博物館ではさまざまな展示が行われている。5: アリゾナ・メモリアルの下には戦艦が沈んでいる。

### ハワイ伝統衣裳・グッズ



色鮮やかなハワイアンドレス。



マグネットは人気のお土産。ハワイらしさが満載だ。



今回、「ハワイ特集」についてご協力いただきました。



ノンフィクションライター  
高橋 真樹さん

放送大学非常勤講師。国内外で取材し、持続可能な未来をめざす活動を伝え続けている。著書に『観光コースでないハワイ―楽園のもうひとつの姿』ほか多数。





## Italian Food

太陽の恵みを浴びたトマトやオリーブオイルなどを使い、北イタリアに比べてさっぱりとした料理が多いのが南イタリア料理の特長だ。



イタリアに来たら食べたい「ジェラート」。

イタリアといえばピザは外せない。



カリアリ名物のオルゾ。別名「リゾーニ」と呼ばれるイタリアのショートパスタ。



イタリア国内だけでなく世界でも人気を誇るビール「ペローニ」は、まろやかな香りが特長。



新鮮なシーフードをふんだんに使ったパスタは南イタリアならではの。

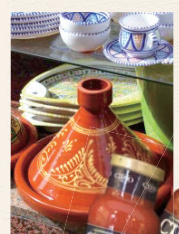


## イタリア[雑貨・みやげ]



カタニアでもカラフルな陶器を街中でよく見かける。

パレルモで購入できる色鮮やかなシチリア陶器。



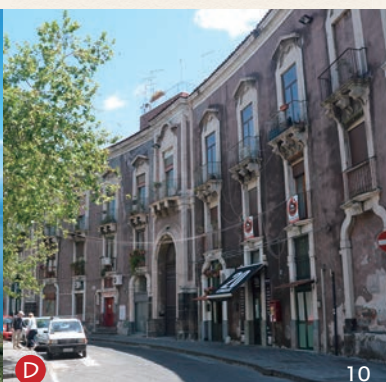
パスタソースの瓶詰めなど、割れやすいお土産でも船旅なら安心だ。



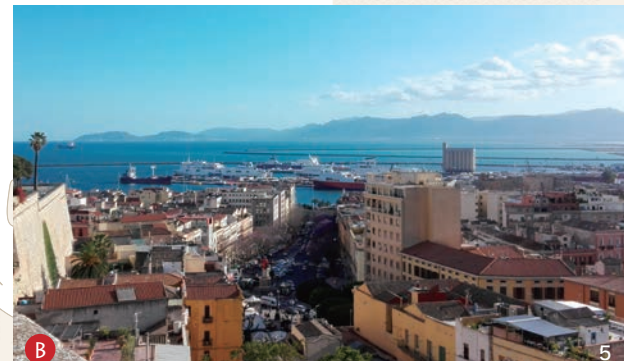
1:コロッセオ 2:スペイン広場 3:ローマにあるサンピエトロ寺院 4:ローマ近郊にあるチボリ



8:パレルモの南128kmに位置する世界遺産アグリジェント 9:市民の足となるパレルモの路面電車



10:バロック様式の建物が並ぶカタニア 11:映画『グラン・ブルー』の舞台になったタオルミーナ



5:高台からカリアリの望む街並み 6:色鮮やかなトマトの街角販売 7:ノーラ遺跡



ベネチア

フィレンツェ

チビタベッキア  
Civitavecchia

★ローマ

第102回クルーズ

B

カリアリ  
Cagliari

第98回クルーズ

C

パレルモ  
Palermo

第99回クルーズ

D

カタニア  
Catania

第101回クルーズ

拠点として街を築いたのが起源。地中海に囲まれているため、東西南北からのさまざまな民族による征服と衰退を繰り返し、今でも街にそれぞれの文化が色濃く残っている。中でも映画『ゴッドファーザー』の撮影に使われたマッシモ劇場は見えておきたい人も多いはず。

シチリア島でパレルモに次ぐ第二の都市が、カタニアだ。2002年に街全体が世界遺産に登録され、バロック様式の美しい建物が数多く並ぶ。街の中心にある、1736年に彫刻家ヴァッカリニによって造られた、エトナ火山に立ち向かう街の象徴といわれる象の噴水は必見。

これら4寄港地、数行ではとても語りつくせない魅力的な街ばかり。気になる寄港地は今のうちにチェックしておきたい。

長靴の形をしたイタリアが現在のような国に統一されたのは19世紀後半のこと。それまで小国に分裂していたため、その地方ごとに独自の文化が育まれてきた。南イタリアは交易の拠点として栄え、いわば文明の十字路のような場所だ。

チビタベッキアは、ローマにほど近い港町。この街は、約400年前に遣欧使節としてローマに赴いた仙台藩士支倉常長が上陸した港でもある。日本人信者が殉教したという教会もあり、内部の壁画に描かれた和服姿のマリア像が有名だ。

地中海で2番目に大きいサルデーニャ島にあるのが、カリアリ。先住民によって積み立てられた巨石遺跡スー・ヌラージは世界遺産でもあるからぜひ押さえておきたい。またカリアリ内陸部では羊の放牧が盛んなため、南イタリアでは珍しく、山の幸が楽しめる。

そして地中海最大の島が、シチリア島。その州都がパレルモだ。この街は紀元前8世紀にフェニキア人が交易の

日本と同じように、南北に長いイタリア。北と南では、食事も違えば、風土も違う。ピースボートでは4回のクルーズにわたって南イタリアに寄港する予定だ。



## 地図で寄港地をゆく

## 南イタリア編



日本と同じように、南北に長いイタリア。北と南では、食事も違えば、風土も違う。ピースボートでは4回のクルーズにわたって南イタリアに寄港する予定だ。





# Bagan

ミャンマー・バガン遺跡群

季節によっては気球がバガンの空を舞う。



敬虔な仏教徒が毎日訪れる「シュエダゴン・パゴタ」。



飛行機の窓から見えるのは、ミャンマーの広大な緑の平原に広がる無数のパゴタ（仏塔）の数々。世界三大仏教遺跡のひとつであるバガン遺跡群までは、旧首都ヤンゴンから飛行機でおよそ一時間半。ここはかつて11世紀から13世紀にかけてミャンマー最初の王朝バガン王朝が栄えた場所だ。イラワジ川東岸に建てられているパゴタはなんと大小あわせて3000近く。その数々を聞くと、仏教を深く信仰し、バガン朝の栄華を支えた当時のミャンマー人の心の拠りどころだったことがわかる。パゴタに足を踏み入れると、当時の暮らしぶりをうかがい知ることができ、壁画やヒンドゥー教の影響を受けたことが見受けられる装飾が目に入る。まるでその当時にタイムスリップした

## 11世紀の栄華を残す セピア色の聖地

ヤンゴンのシュエダゴン・パゴダの仏塔には約7,000ものダイヤモンドやルビーなどの宝石が散りばめられているという。



かのような気分になれるのは、この遺跡群ならではのかもしれない。おすすめは夕刻のバガン。楼上から望むバガン一帯はセピア色に輝き、かつて同じ場所に立つたであろうバガンの人々に想いを馳せることができる。

ミャンマーの代表的な仏教遺跡といえ、もうひとつ。ヤンゴンにそびえる黄金の寺院、シュエダゴン・パゴタだ。仏塔の高さはおよそ100m。ヤンゴンの街中でもひと際目立つ存在だ。ここはミャンマー人にとって今なお仏教



きらびやかな装飾が印象的な仏塔の内部。



ミャンマーの定番「ピタインダウン」。

歩き疲れたら市場で腹ごしらえ。

寺院では脱ぎ履きが、多くサンダルが。

の聖地として生活の一部に根付いており、一日中参拝者が絶えることはない。このシュエダゴン・パゴタ、決してミャンマーの人だけのものではなく、もちろん観光客も参拝可能だ。その際、自身の「八曜日」というものを気にしてみるとおもしろい。これは生まれた日の曜日によってそれぞれの方角とシンボルとなる動物が決まるというものだ。水曜日生まれの人だけは午前と午後、神が分かれているというから要注意。半世紀にわたって続いた軍事主導の政権が終わり、民主化の動きが始まったばかりでもあるミャンマー。いま行ってみる価値は十分にあるだろう。

## 世界三大仏教遺跡を巡る

古来より独自の文化を育んできたアジア。仏教をはじめ、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教など、さまざまな宗教が混在する。その中でも仏教にフォーカスすると、世界三大仏教遺跡と呼ばれるものすべてがアジアにある。2018年3月出航予定の第97回クルーズは、ピースボートの原点でもあるアジアがテーマ。世界三大仏教遺跡であるバガン、ボロブドゥール、そしてアンコール・ワットを一度のクルーズで訪れる。それぞれに特長が異なる三つの仏教遺跡。かつての栄華を感じられるタイムスリップの旅へ出かけよう。



Bagan バガン／ミャンマー



Borobudur ボロブドゥール／インドネシア



Angkor Wat アンコール・ワット／カンボジア





# Angkor Wat

カンボジア・アンコール・ワット遺跡群

写真に収まりきれないほど立派な遺跡が堂々とそびえる。



ガジュマルの巨木と一体化した神秘的なタ・プローム。

カンボジア北西部に位置し、シエムリアップから車で数十分のところにあるのがアンコール・ワット遺跡群。9世紀から13世紀にかけてクメール王朝が築き上げた迫力ある遺跡群だ。特にカンボジアを代表する建造物であるアンコール・ワット本殿の回廊には、ヒンドゥー神話にまつわるシーンが、精巧な浮き彫りで描かれている。そのきめ細やかさには誰もが見惚れてしまう。

また遺跡群というだけあって、世界遺産に登録されているアンコール地域内には数百にも及ぶ遺跡が点在する。中でも押さえておきたいのが、アンコール・トムだ。クメール語で「大きな町」を意味し、バイヨン寺院を中心として、

高さ8mの城壁と濠に囲まれ、一辺が3kmもの長さを誇る正方形の古代都市だ。バイヨン寺院では、クメールの微笑みといわれる穏やかな笑みを浮かべた最大2m余の大きな顔が彫られた四面像を見ることができる。他にも長い年月をかけてガジュマルの巨木に浸食された寺



世界遺産

「アルカイックスマイル」と呼ばれる独特な表情が印象的。

## クメール王朝が残した アジアの至宝

### カンボジア [グルメ&雑貨]



カンボジアのフォー「クイティウ」は絶品。



クロマーという布は現地の人の必需品だ。

市場では魚の干物も。

院、タ・プロームなど、見どころは満載だ。アンコール・ワット遺跡群のおすすめは日の出と夕暮れ時の2回。早起きをして拝むアンコール・ワットは、朝日をバックにぼんやりとシルエットが見えてくる神秘的な様相。夕暮れ時になると、夕日が西のジャングルに沈んでいき、朝とはまた違った光景に思わず息を呑む。

アンコール・ワット遺跡群の観光のもうひとつの楽しみが、シエムリアップの街でのショッピング。思わず目移りするぐらいの豊富な品揃えのマーケットでは、食料品だけでなく洋服やジュエリーなど、お土産には困らない。さて急速に発展を遂げるカンボジアだが、地域によつては未だに地雷が埋められている事実も知っておきたい。ツアーによつては、地雷除去作業の見学や被害者の話を聞くことも可能だ。



## 1000年もの間 忘れられた謎多き遺跡

世界遺産

ピースボート初寄港となる、インドネシア・スマラン。スマランというと馴染みがないかもしれないが、首都ジャカルタと同じくジャワ島にある街だ。バスに乗ってスマランの街を抜け、のどかな農村地帯を眺めながら移動すること数時間。そこに待っているのは8世紀後半から9世紀前半にかけて建立されたといわれる世界最大級の仏教遺跡、ボロブドゥール遺跡だ。

このボロブドゥール遺跡、実は謎多き遺跡ともいわれる。この遺跡が見つかったのは、1814年のこと。それまで実に1000年もの間、誰にも見つけられなかったのだ。見つかった当時、この遺跡は近くにあるムラピ山の大噴火による火山灰の下に埋もれ、さらに密林に隠れていたという。他にも異教徒による破壊を恐れ隠されたという説もあるくらい、神秘に包まれた場所だ。発見されてからは発掘調査と修復



遺跡の至るところにレリーフがある。

が行われ、1991年にはついに世界文化遺産に登録されている。サンスクリット語で「ボロ（僧院）」と「ブドゥール（高い丘）」という由来の通り、自然の丘を生かして築かれたこの遺跡は、半円型の丘を200万個もの岩で囲い、階段状のピラミッドを形成し



ピラミッド状の層になっていることがよくわかる。



たくさんの仏像が祀られている。

ボロブドゥール遺跡

ている。ピラミッド状の層は、欲界色界・無色界という大乘仏教の宇宙観である「三界」を表現していると考えられている。また1000年以上前に彫られたという美しいレリーフや、多くの仏像が祀られている内部は必見。これらのレリーフを順に追って上まで登ると、悟りの道が開かれるというから、見学する際はそのことを心に留めておきたい。ピースボートにとつても初寄港。謎に包まれた神秘の遺跡に、ついに足を踏み入れるときがきた。



200万個の石が使われている。

### インドネシア[グルメ&雑貨]



「ナシチャンプル」は一皿で食事を楽しむ。

お土産には手作りの置物。

焼きそば「ミーゴレン」も美味。



## ピースボート初寄港へ すべてが新鮮に映った ミャンマー

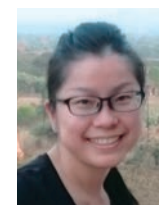
ジャバングレイス 寄港地部署 森陽子

わたしは長いあいだ寄港地のツアーを組む仕事に携わっていますが、ピースボートがミャンマーに行くのは初めてのことにあります。ちょうどこの間ヤンゴンに行ってきたばかりですが、みんなゆつたりと暮らしていて、せかせかしていない街の様子が印象的です。ヤンゴンの街はイギリス領時代のコロンアルな建築物が立ち並んでいます。街中でオレンジ色やピンク色の袈裟を着たお坊さんがいるので、仏教の国であることを肌で感じることができます。

そんなミャンマーにとって、実はこの一年は初めて国民が選んだリーダーが国政を行った歴史的な一年でもありました。そのため、国としてもこれから変わろうとしている真つ只中。5年、10年後にはきっと違う姿になっていると思うと、今訪れる価値はあると思います。

ピースボートがミャンマーに寄港する際は、現地の若者との交流ツアーを予定しています。ミャンマーでは、今の国の状況も重なって海外や日本に興味を持つ若者が増えてきています。ミャンマー人は非常にシャイな性格なのですが、お互いについて理解を深めることができる有意義なツアーにできるといいなと思っています。

私自身、ミャンマーで体験するすべてが新鮮で、またすぐに行きたいと思いました。みなさんと一緒にミャンマーに行ける日を楽しみにしています。



### ピースボート地球一周の船旅

2018年3月に出航するピースボート35周年記念クルーズで訪れるのは、ピースボートの原点「アジア」。

憧れの世界三大仏教寺院を二度に巡る見どころ満載の旅です。硫黄島沿岸航行にはじまり、美しい海が魅力のパラオ、18年ぶりの寄港となる東ティモールを経て、スマランの仏教遺跡ボロブドゥール遺跡へ。ヤンゴン、シンガポール、シアヌークビル寄港後は、初寄港のタイバンコクへ入港。

旅のクライマックスは、大小2000の奇岩が林立する世界屈指の景勝地ハロン湾遊覧、そして中国のリゾーアイランド海南島へ。大満足の全11寄港地。アジアグランドクルーズが船出します。



### 「ピースボート35周年記念」 出会いと感動の、アジア新航路



2018年3月7日～4月22日(神戸発着47日間)  
2018年3月8日～4月23日(横浜発着47日間)

### ストックホルム・イベント

## ロウィン副首相訪船

2017年6月2日 第94回クルーズ

第94回地球一周クルーズ中のオーシャンドリーム号は、スウェーデン・ストックホルムに寄港。2017年2月にピースボート、国連環境計画(UNEP)と共に、ボランティアコミットメントといわれる、海洋環境に対しての自発的な解決を約束する宣言を行っていたスウェーデン政府。同年6月5日から9日までニューヨークの国連本部で開催された第94回国連海洋会議ではフィジーと共に共同議長国を務めた。その総会議長でもあるイサベラ・ロウィン副首相がオーシャンドリーム号に訪船。スウェーデン市民団体も交えて海洋環境についてのシンポジウムを行った。



海洋問題についてディスカッションするロウィン副首相。



ピースボートが掲げる「SDGs」のマークの前で記念撮影。

「海を守らなくてはいけないという気持ちにみんなになつてもらうためには、海のすばらしさを知ってもらうことが必要です」。オーシャンドリーム号で行われた海洋シンポジウムにおいて、スウェーデンのイサベラ・ロウィン副首相は聴衆に対してそう投げかけた。

彼女は日本でも海洋問題に関する著書を出すなど、もとより海洋問題への関心が高い。シンポジウムでは、海の酸性化や温暖化、プラスチックごみの膨大化の問題、そしてそれに関連した魚類の減少が議題になった。特に過剰漁獲をやめ、気候変動の最前線に



シンポジウム参加メンバーがデッキに集まり集合写真。

いる国々が水域を監視し、必要な資源を確保できるようにするための議論の重要性を強調していた。

第二回国連海洋会議に際して開かれた2017年2月の準備会において、国連環境計画(UNEP)、スウェーデン政府と並んで、日本の民間組織であるピースボートから宣言が出たことに対しては、国際的にも関心を集めていた。それに関し、ロウィン副首相も「このピースボートのクルーズは、海のすばらしさを知ってもらうにはこれ以上ないプログラムだと思う」とシンポジウム内でコメント。このシンポジウムは、もともと海洋問題の解決に向け同じ志を持ったピースボートが遠く日本からストック

ホルムにやってくるということ、スウェーデン政府との協力により実現したものであった。

ピースボートは、第95回クルーズで「海洋と気候変動ユースアンバサダー」と呼ばれる、小さな島国の若者ら約8人がピースボートに乗船するプログラムを発表。沈みゆく島の現状、気候変動、危機を訴え、最終的には、ニューヨークの国連へピースボートに乗っていくプログラム内容だと話した。

それを聞いて深く頷いていたロウィン副首相。ユースアンバサダーも含めて世界中の海を愛する市民同士が連帯をし、国際社会に働きかけ、海を守っていくとお互いの志を確認し、本シンポジウムは幕を閉じた。



和やかなムードのもと会は進行。

オーシャンドリーム号にも満足げな様子。







# 地球一周クルーズから1年 アウシュヴィッツ・ツアーを いま考える

数百万人が犠牲になったといわれる「ホロコースト」。ピースボートの北半球を巡るクルーズでは、負の歴史を今に伝える世界遺産「アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所」を訪れるオーバーランドツアーを毎回予定している。このたび、第92回ピースボート世界一周クルーズに乗り出し、アウシュヴィッツのツアーに参加した越田由美さんと、杉下依子さんにそのときのお話を伺った。



第92回ツアー参加者 越田由美さん(左) 杉下依子さん(右)

**2016年夏に出発した第92回地球一周クルーズ。その中でアウシュヴィッツを訪問するツアーに参加したきっかけは何だったのでしょうか。**

越田…わたしは第92回クルーズの1年前にあたる、2015年にピースボートの乗船を決めました。申し込んだときに行きたいと思っていたところが4つあり、そのうちのひとつがアウシュヴィッツです。実はいろいろな事情が重なり、一度は乗船をやめようかなと思っただのですが、いや、やっぱり行こうと決めて。その「やっぱり」というのは、ツアーを申し込んだ年がちょうど戦後70年だったことにあります。わたしの親たちが体験した先の戦争について、わたしの代までは引き継いでいったほうがいい気がして。だからホロコーストのことも、

ひとりの人間として継承しておく必要があると思ってツアー参加を決めました。杉下…わたしは同じ職場にピースボートに乗った人がいて、その人の話を聞いて乗船を決めたんです。それからオプショナルツアーのパンフレットをもらったものの、どのツアーを選べばよいか最初はわからなかったんです。そうしていると、ピースボートスタッフの方が最初の寄港地からひとつずつおすすめのツアーを教えてください、特にアウシュヴィッツだけはいろいろ考えるきっかけになるからという理由で薦められました。正直あまり知識もなかったのですが、いろんなところを見てみたい、知りたいという思いで乗船を決意したこともあり、このツアーに参加することに決めました。

越田…わたしはギリシャからポーランドへ行き、ローマで船に合流する、旅程の負担も考慮されているツアーに参加しました。ツアーで訪れた2つの収容所のうち、アウシュヴィッツ収容所は今



**メアリスさんはどのようなお話をされたのでしょうか。**

杉下…メアリスさんは「見えないものを見てきてください。事実を知って、土地のこえを聴くこと、自分のこえを聴くこと、他人のこえを聴くこと、信じるもののこえを聴いてください」とおっしゃっていました。そのメッセージを聞いた後に訪れた収容所では、日本人で唯一の公式ガイドを務める中谷剛さんの話を聞きました。そこでは山積みになった犠牲者の髪の毛がガラス越しに並べてあつて、背筋が凍りました。

また、中谷さんはそういったものを説明するなかで、決して答えを言うのではなく、どう思いますかと投げかけてくれるんですね。だから自分でもしっかりと考えることができて、人間はこわいなとか、だからこそしっかりしなくてはいけないなと思ったことを覚えています。

**メアリスさんのおっしゃっていた「見えないものを見てきてください」ということばの意味はわかりましたか。**

杉下…ツアーのときは常に自分との会話でした。事前に勉強会で映像を見ているからかもしれませんが、本当に静かな「こえ」が聞こえてくるような感じがしたんです。

越田…それ、すぐわかる。わたしのまわりでも同じことを口にする方々が多かったです。そこにはもう誰も収容されてはいないはずなんですけど、そこに確かに人がいたというを感じました。



**ツアーの中で印象的だったことはありますか。**

越田…実際に訪れた施設はもちろんなんですが、ツアーから戻った後、それぞれがどう思ったかを話し合う報告会が印象的でした。ホロコーストに対して、各人各様の距離感、思い方があったので、それがなぜなのかを突き詰めてみんなで話し合うというワークショップの場を設けたんです。自分の中だけでは消化しきれない重たい内容だから、あれは本当にいい経験でした。

**ワークショップではどのようなことを話すのでしょうか。**

越田…わたしは自分の孫と同じくらい、20代前半の男性の学生さんと話す機会がありました。お互い最初はうまく伝えきれずに、意見の衝突があつたんですね。それでも彼はものすごく真剣だったことを覚えています。最初は相容れない感じだったのですが、本音をぶつけていくに打ち解けていって、下船時には仲良しになっていったんです。人間、話してみないとわからないなと、この年齢になって学びました。

**ツアーを終え、ご自身で変化はありましたか。**

杉下…わたしは、メアリスさんの「いろんな人のこえを聴きなさい」ということがずっと心に残っています。それもあつて、いまでも相手が本当はこう言いたいので



当時の設備の多くが今もそのまま残っている。



門に掲げてあるのは「働けば自由になれる」の文字。この門をくぐって人々は収容されていった。



収容所内には有刺鉄線が張り巡らされている。



日本人で唯一の公式ガイド・中谷剛さんの話を聞くツアー参加者。

はないだろうかと考えたり、相手に左右されずに自分の意見を持つとうと思えていたりする自分がいるんです。メアリスさんがお話ししてくれたことは、振り返ってから気づきました。わたしのようにな変わるきっかけが欲しい方や、ホロコーストやアウシュヴィッツのことがどこかに引っかかった方にはぜひ参加してほしいツアーです。

越田…実は乗船者同士は下船後もよく集まって交流を続けることが多いのですが、わたしはあまり顔を出すことができなかったんです。でも一人だけ今回のツアーで二緒させていただいた同年代の女性と「アウシュヴィッツ」という件名で二年に一回メールで連絡を取り合い、お互いの近況報告をしているんです。もともと私は先入観が強いほうで、仕事でも失敗することがあつたんです。でも、このツアーのワークショップのおかげか、先入観にとられずに人を許すことができるようになって、自己解放ができたように思っています。そしてきつと、その地で最期を遂げた方の「こえ」を聞いたんだと思います。「支え合って生きてね」って。それくらい、今回のツアーはわたしにとって大事なものとなりました。





【ソーセージ】  
ドイツも有名だが、チョリ  
ソーやトルネードソーセージ  
など各地で楽しめる名物。



【セビーチェ】ペルーなどラテンアメリカ  
の太平洋沿岸地域で主に食べられる。  
さっぱりとした新鮮な魚介類のマリネ。



【生春巻き】日本でもおなじみのベトナム料理。ライスペーパーで巻かれ、タレ  
にはナンプラーなどが使われている。



【小籠包】上海や台湾といえはやっぱりこれ。口中に広がる肉汁は絶品。  
舌を火傷しないように要注意。



【ガーリック・シュリンプ】オアフ島のハワイ  
イアンフード。殻付きの海老をガーリック  
バターで香ばしくじっくり炒めている。

【チリクラブ】  
ほとんどのクルーズ  
で寄港するシンガ  
ポールの名物。ピリ  
辛な味付けが特長。



## 世界のビールがあれば、 世界のおつまみもある。

世界一周の船旅において、寄港地の楽しみのひとつに  
挙げられることが多いのが「世界のビール」。  
その国に行ったなら、ぜひビールと合わせて食べておきたい  
世界のおつまみの数々をご紹介します。



【アサード】アルゼンチンのバーベキュー  
料理。味付けは主に岩塩のみで、炭火  
焼きでじっくりと焼く。



【タコス】メキシコを代表する料理。メキ  
シコ人の主食であるトウモロコシのトル  
ティーヤでさまざまな具を包んで食べる。



【フィッシュ&チップス】イギリスの国民的  
料理である白身魚のフライとフライドポ  
テト。レモンを絞ると一層風味が増す。



【バックブーンファイデー】タイの空心菜  
炒め。ファイデーとは、タイ語で「赤い  
炎」を指し、強火で炒めることに由来する。



【タパス】スペイン料理の定番として有  
名な小皿料理。ビールやワインのおつ  
まみとして、バル(Bar)でよく出る。



【チキンライス】シンガポールご当地料  
理の代表。茹で鶏肉とその茹でた汁で  
炊いたご飯がセットになっている。

## 【世界一周のプロフェッショナル】 スタッフ120人に聞きました！ 世界一周 いろいろランキング

地球一周を経験しているスタッフだからこそ、各国  
を比較して語れる地球一周ランキング。第三弾の  
テーマは「世界のビール」。みなさんが行ってみた  
い国のビールは入っていますか？



World Beer Ranking

### Q.お気に入りの「世界のビール」は？



1 ヒナノ(タヒチ) 19票  
「南太平洋の真珠」と称される、タヒ  
チのビール。ライトラガーな感覚で飲  
みやすく、フルーティーな後味が残る。



2 コロナ(メキシコ) 16票  
軽い飲み口で、すっきりとした後味が  
特長。塩を加えたり、ライムを入れたり  
して飲むのが定番のメキシコスタイル。



3 ギネス(アイルランド) 15票  
しっかりとした苦味とクリーミーな泡  
が特長の黒ビール。現地でしか飲  
めないといわれる生ビールが絶品。



4 タイガー(シンガポール) 12票  
シンガポールを中心に飲まれ、苦味  
はそれほどなく、すっきりとした味わ  
いで、爽快感が感じられるのどし。



5 レッドストライプ(ジャマイカ) 10票  
ジャマイカ三大名物。アルコール度  
数は低く、暑い国のビールらしく、苦  
味もなくさっぱりとした味が特長。



6 バー・バー・バー(ベトナム) 9票  
ベトナムの国民的ビール。さっぱりとド  
ライでありながら、泡の香りがよくう  
つりする。正統派は氷を入れて飲む。



7 クスケニヤ(ペルー) 8票  
王冠にはマチュピチュの  
模様がプリントされてお  
り、そのまま缶バッチにす  
るのもおすすめ。



8 アロハ(アメリカ・ハワイ) 6票  
口を含むと、ホップにし  
っかりとした麦芽の風味が  
あり、コクとまろやかな苦  
味、甘味が強め。



9 シンハー(タイ) 5票  
1933年にタイで生まれ、  
ホップが効いており、し  
っかりとしたモルトの風味が  
特徴的。



10 クレーベンブロイ(ドイツ) 3票  
ミュンヘンで醸造される  
代表的なビール。「レーベ  
ン」は獅子、「ブロイ」は醸  
造所の意味。



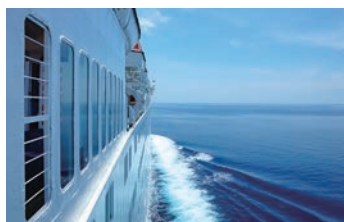
# 船上百景 [ 洋上の出会い ]



乗船者を楽しませるのかのように何度もジャンプを見せてくれた。

## 素敵な船旅を予感させる イルカたちとの出会い

穏やかな海をゆつくりと進むオーシャンドリム号。横を並走するかのようには黒い影が見える。「イルカだよ!」。デッキにいた子どもたちが声をあげ、次第にデッキに人が集まり始める。見てみると、まるで遊んでいるかのようにイルカが3頭いる。ジャンプしたり、交互に浮き沈みしたりする3頭の姿に、デッキにいる人たちも釘付け。カメラを片手にイルカを追いかけていた60代の男性に聞いてみると「出航してまだ1週間。10年以上ピースボートに乗っているというスタッフの方も、こんなに近くでイルカを見るのは初めてだと言っていました。これからの1000日間の船旅が楽しみで仕方ありません」と期待に胸を膨らませていた。船旅だからこそ起こりえた洋上の出会い。素敵な出会いは、寄港地や船内だけではなかったようだ。



この日は穏やかな海が広がっていた。



カメラを持って乗船者がデッキに集まった。



時をさかのぼること14年前、私はホノルルに船で初めて訪れました。現地で買ったアロハシャツを着てダイヤモンドヘッドに登り、親指と小指を立て「ALOHA」と言いながらハワイを堪能したことを覚えています。その後、ピースボートクルーズに関わるなかで、人気観光地ハワイとは別の「太平洋の島 Hawaii」のことを学びました。

そんな私は最近ハワイの代表的な文化の一つでもあるフラ（フラダンス）を習い始めました。手の動きや歌詞の一つひとつ全てに意味があり、ハワイの歴史の奥深さを身をもって感じています。でもフラは、ゆつたりとした優雅な動きのわりに実は手の動きが結構きついんです（笑）。目下の夢は本場のハワイで踊ること!

みなさんも機会があればこれから訪れる国の文化にぜひ触れてみてください。今まで遠かった国を身近に感じることができると思いますよ。(S.N)